

非球対称超新星爆発の光度・偏光度予測

東京大学 天文学専攻 M2 釋 宏介

- 超新星/GRBのメカニズム解明には非球対称度を調べるのが大きな力になり、そのツールとして偏光測定が重要。
- 我々は理論→観測の橋渡しとなる、爆発シミュレーションから観測量を求める部分をより効率的にするため、非対称性の大きいイベントで速く計算のできる逆Monte Carlo法に基づく輻射輸送計算コードを開発した。
- 結果は正しくテストされた。
- 今後は種々の超新星モデル計算に適用して光度や偏光度を予測し、観測と突き合わせて、現実的な超新星モデルを探求する。